

土地國有を唱へる者を生じた。だが毋論土地問題を解決する者は資本
家地主ではない。土地問題は今後の斗争に於て愈々尖锐化してゆくであ
らう。小作争議は今後愈々増加するであろうが、それと共に農民斗争の領域も單に
小作争議のみならず、借金、税金に、地方自治体に其他各方面に深刻に拡
大されて来た。
斯様な農民斗争は單に全農へ組織されるものではなく、未組織農民の
間にすら、強烈に行はれて来た。だが未組織農民の運動の方向は、或る
いは中農的運動となり、ソノシテの強硬則ち、ソノシテの運動自体へ進展
する危険性を持つてゐる。それは没落する中小商工業者の運動に似てゐる。
此の昂まりゆく農民斗争に對して、又配階級はソノソノ的を彈圧政策を
つて臨んで来た。(神根争議に於ける暴行、全回會議に對する彈圧政策を
見よ!)又それと共に調停活動を強行し、産業組合実行組合を中心とする中
農的運動をもつて、尙我々をぞんざんと狂弁してゐる。
だが食糧の胸の中、ソノソノの昂まりゆく反抗と不平の波は、決して
此等の政策によつておさめられぬ。事は出来ぬであらう。今や農村に於
ける情勢は正に成熟してゐる。

三、主觀的情勢

日本に於ける階級運動は客觀的情勢が成熟しかつたから、打ち續く暴行
と表面的勢力は一般的の見解は強められてゐるとは稱し得ない。

労働組合、労農政党内に振動がある。
農民運動は種々の新らしいものがある。反動的なソノソノ的なる
の、極左翼の全回會議は、ソノソノの分裂を農民運動は今や右翼の運
動によつて又もやめられ、全回會議は遂にソノソノの
針の誤謬をバクローし、強硬なる内部抗争に分裂状態におち入つて、ソノソノの
恐ろしい彼等の主張は、ソノソノの理論は實踐の前に打ちのめされた。
この極左翼の傾向の中に於いて、我々全農は揮けるべき方針
を任務は、此の今や進出せんとするソノソノの運動をソノソノの
提携して、日本の農民運動は第二の波の昂揚期に入つてゐる。最近の
全農は正しく方針の下に、此の波の昂揚と追軍をかけるであらう。